香港事務所

NCB 海外レポート

大湾区の未来と可能性⑤

～連携を深める深圳と香港の経済開発～

◇ 前海深圳・香港現代サービス産業協力区

・中国広東省深圳市の西部には、「現代サービス業」*の発展と、広東省・香港間の連携を高める事を目的に開発が進められている「前海深圳・香港現代サービス産業協力区（以下、前海地区）」という地区があります。

・前海地区の開発計画は、中国政府により 2010 年に公表されました。2021 年には開発エリアが 8 倍に拡大され、「香港との連携強化により中国の発展に貢献し、世界と向き合っていく」という方針の下、現在も大規模な開発が進められています。

・前海地区は中国でも屈指の規模を誇る宝安国際空港のほか、港湾施設や催事施設などを有し、国際的なベイエリアとして大きな発展を遂げています。そうした中、日本企業もオフィスを構え、事業機会の獲得を狙って活動しています。

＊中国政府によれば、「現代サービス業」とは、金融・保険・情報・物流・会計・コンサル・法律・医療・建築エンジニア・デザイン等の分野を指します。

（上）香港・深圳・前海地区の地図
（下）前海地区の発展状況の比較写真
出所：前海展示庁で筆者撮影

◇ 前海地区と連動する香港北西部

・一方、香港政府は、2023 年に「北部都会区発展計画」を公表しました。この計画では、深圳市と隣接する香港北西部エリアを、前述の前海地区と連動した「ハイエンド専門サービス・物流ハブ」として開発を進めるとしており、30 万戸超の住居の建設と 23 万人分を超える雇用機会の創出や、深圳との越境鉄道を含む交通網の整備が計画されているほか、香港が有する国際基準の法律や会計などの専門サービスを提供することで、中国本土企業の海外進出を支援することを目指しています。

・また、同エリアは、香港国際空港と前海地区の中間に位置している事から、近代的な越境貨物輸送の拠点として発展することも期待されており、将来的に香港南部（香港島・九龍地区）と比肩するような経済圏を形成出来るのか、注目が集まっています。

・今後、香港と深圳の連携が一層深まることで、企業にとっては香港に居ながら中国ビジネスが展開できる環境となり、日本企業による深圳の先進的なテック企業等との接触機会の増加も見込めることから、新たな「中国ビジネスの拠点」としての香港の位置付けも高まるものと思われます。

ハイエンド専門サービス・物流ハブ(紫色部分)の開発イメージ。既存の深圳湾大橋に加え、越境鉄道の整備が計画されている。
出所：香港政府発展局

2024 年 5 月 1 日作成

西日本シティ銀行香港駐在員事務所